

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2004年11月30日

50号記念

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-3 1-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

## 皆の声を届けて50号

### 重度障害者の安心で楽しいマイホームをめざして



速いものです 私たちの通信として『たわわ』をお届けして来ましたが、今回で50号を迎えました。できるだけホットなニュースを伝えて、私たちの活動を会員みんなのものとして共有したい、会員相互の理解も深めたいという思いが少しでもお伝えできたとすればスタッフ一同大変うれしいのですが.....

\* \* \*

2000年6月の創刊号には、こんなことを書きました。

『“重い障害があっても、地域の中で生き生きと暮らすこと”これってなかなか大変です。でも多くの方の助けがあればやり遂げられると、今感じ始めています。ここに支える会があって、グループホームがある。住みやすそうな地域だね・・・というふうになってほしい。これが私たちの願いです。』

さてそれから4年半が経ちました。多くの人達の協力と努力のうちに、いま重度重複障害者がともに暮らすグループホームが2つ建ちました。1館めの「よつばホーム」は、ようやく3年がたち、それなりに安定してきましたが、「第2よつばホーム」は4月に出発したばかりの、まだよちよち歩きです。

障害の重い人達が多い分いろいろと時間もかかります。ケアにあたるスタッフも一生懸命ですが、入居者は、親元から離れて暮らすことに、慣れてきているように見えても、障害者は肉体的にも精神的にも繊細なので、油断は禁物。今年の冬の体調管理が心配されるところです。

地域の方たちとも、バザーに来ていただいたり、運動会に呼んでいただいたり、何よりも日常生活の中でいろいろ交流も出来てきました。

グループホームが、入居者にとって、ほんとうに安心で楽しいマイホームとなり、地域の一員として自然に暮らせるように.... これからも私たち一人一人のライフスタイルにあわせ、力強くけれど無理のない支援の輪を拡げ、見守って行きたいものとおもいます。

## グループホーム これからの課題

横浜市グループホーム連絡会 室津 茂美

横浜に障害の重い人たちが生活するグループホームが誕生してこの秋で21年目。20年の節目を過ぎて、新しい節づくりの開始です。

この20年は、グループホームという生活の場を横浜市内に広げることが課題だったと。在宅か、施設入所しか選択肢がなかった20年前から、障害者のみなさん、多くの関係者のみなさんの努力の積み重ねで、障害の重い人もグループホームで暮らせるようになりました。今、横浜市には運営委員会型73カ所、法人運営型169カ所（H16,4現在）のグループホームがあります。約250カ所のグループホームで1200人も障害者が暮らしていることとなります。

これだけ多くの人たちの利用するところとなったグループホームですが、障害者の暮らしを担っていける状況にはなっていません。横浜のグループホームの今後の課題は、いつまでも安心して暮らせるようにしていくことだと思います。

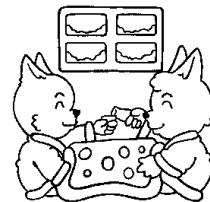
生活は20年、30年と続くものです。我が子が地域で暮らせるように願って、一生懸命グループホームを立ち上げ、運営を担ってきたお母さんたちも、だんだん高齢になってきます。職員から職員へと援助の質が引き継がれていかなければ、障害者の人たちの暮らしはつながっていきません。

援助のつながりをつくっていくのが運営の役割です。職員が行き詰まっているときに話しを聞き、それを乗り越えるための方法を一緒に考え、入居者のみなさんの生活の変化にどう対応するかを考え、制度の変化にあわせて体制を考える。そういったことが今は、十分に取組んでいません。これから先20年、30年と長期にわたって安定した暮らしを保障するためには、グループホーム制度の中に運営を担うしくみも作っていかねばならないと思います。

もう一つの課題は、施設に入所している人たちの中で、地域での暮らしを希望している人たちがグループホームに入居できるようにしていくことだと思います。入所施設がグループホームをつくらなければ施設から出られないという状況を変えていく必要があります。法人の枠をこえて、たとえば施設から出たいと希望している人が、運営委員会型のグループホームに入居するというのもっとスムーズにできるようにしていかなければいけないと思います。

そのためには、いくつかの課題があると思います。グループホームを増やしていくことも必要です。施設からグループホームへの暮らしの変化、あるいは運営の異なる事業所間の調整など、つなぐ役割を担うところも必要になると思います。

支援費制度がめざしている「障害のある人たちが自分の暮らし方を自分で決める」ことの実現に向けて、グループホームは求められている役割を担っていかねばならないと思います。



## リンク「Link」

櫻井 徹



東横線で最近、よく駅員さんがアルミの二つ折りのパネルを抱えているのに出会います。ふと車内をみると車イスに乗った人が見えます。東横線の全線にエレベータが付いたのはここ1・2年の事でしたか。あの時、そう、友子さんが一人で東横線に乗っていると聞いて腰を抜かしたのは随分前のこと。その前から、赤い翼号になにやら鉄板の折り畳んだ物を積んでいたのを思い出します。

あの小さな鉄板がいまや立派なパネルになり、何処の駅にも車イスで行かれるようになった。それは、一つには友子さんが勇気を出して東横線に乗ったから起きた変化で、難しい問題に出会って何も出来ない弱気になった自分にその勇気を見習うことも教えてくれた。この事は、とりもなおさず「よつばホーム」の活動全体がもっている大きな力だと思っています。

さて、突然ですが、これからの「よつばホーム」に期待することを書いてみたいと思います。それは、この「たわわ」の様に情報を発信すること。もっと多くの人々にたいして、いろいろな方法で情報を発信してもらいたい、ということです。一般の人々にどんなに楽しいことをしているか(!)知ってもらふ事ばかりでなく、同じように活動している人達がノウハウを共有することが出来ると言うことも含めて、様々な情報を発信してもらいたい。その事が連鎖(リンク)の力となることを信じて。



## 家族大好き

小栗 芳久

鶴見川の土手沿いの道を走っていると、サッチャンが「お父さんいるかなあ」と心配そうに呟いたり「今日はお父さんはお休み。」と嬉しそうに言ったりする。サッチャンはお父さんが好きなようだ。「お母さん、お買い物から帰っているかなあ」とも心配する。家に帰るときにお母さんがいなかった事など一度もなかったのに。(実は一度だけあったけれど。) お父さんとお母さんの愛情を一杯受けながら育てられてきたことがとても感じられる。

セツコさんはいつも物静かでサッチャンの話相手になってくれる。サッチャンがセツコさんに「お姉さんと二人でお父さんもお母さんもいなくて寂しいネエ」と気を遣い、自分にはお父さんとお母さんがいることを喜ぶ。お父さんとお母さんには何としても長生きをしてもらわねばならないと思う。

セツコさんはお花が大好きでびっくりするくらいに良く知っている。通る道に面している家の庭には四季折々、いろいろな花が咲いている。そして花にまつわる色々なことも教えてくれる。残念ながら私の頭にはせっかくの新しい知識がなかなか入ってはくれないけれど、その時々、感心させられる。

そしてサッチャンもセツコさんも、お二人のご家族にも本当にいつまでも元気で健康でいて欲しいと願うばかりである。



## 人間関係を密にして

山田 千枝子

TAWAWA....の力強い横文字を目にするようになりましてから早いもので、もう四年になります。12月には50号にこぎつけますそうで 本当におめでとうございます。

あれよあれよと云う間に、よつばのグループホームが二館も設置され、一館目の入所者の皆さんはすっかり生活のリズムが出来上がったように見受けられます。少人数制ですので、スタッフも 入所者一人一人の特徴を把握しやすく 意外と早くお互いの信頼関係ができていないでしょうか。

二館目に入られた皆さんも 生活を重ねていくうちに直き仲間や職員さん達と気をゆるし合える仲になる事でしょう。「安心して遠くへの用足しに出かけられるようになりました.....」と入所者のお母様からのお声を聞きますと、とてもホッと致します。

新潟中越地震では、障害児を持つ親ごさんが周囲に気兼ねして避難所を離れ、いつ倒壊するか分からない我が家で生活をしている...と云う記事を新聞で読みましたが そう云う危険でやりきれない現実を目にしますと、日頃から人間関係を密にし、お互いが尊重しあってグループホームを継続していただきたいと切に思います。

## 応援しています

寺田 偕子

「たわわ」を毎月本当に楽しく読ませていただいていますもう50号になるのですね。毎月グループホームのみなさんの様子がよくわかりうれしいです。

友子さんの「めがねのこえ」は色々な集会に出席したり友子さんの視点からとてもすどく観察して考えていらっしゃるのに感心しています。

グループホームのみなさんがどうぞ楽しい日々を過ごされますようお祈りしております。

### 重度障害者の生活写真展（3）の開催について

支える会の情報発信活動のひとつとして 障害者の表情や地域で暮らす喜びの声を伝えます  
少しでも多くの人に、日常生活の様子や、グループホームの事などを知っていただくために・・・

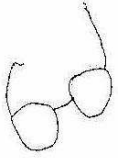
期日：平成17年2月7日（月）から12日（土）

会場：大倉山駅前通り アートかれん「ギャラリー かれん」

東横線「大倉山」駅下車2分 （東京三菱銀行の前）

主催：地域で生きる障害者を支える会

共催：障害者グループホーム「よつばホーム」「第2よつばホーム」



## めがねの声

この前 私の入っている余暇活動のグループで 三浦半島 城ヶ島へ旅行をしました。

とてもすばらしい 2日間でしたが 帰りに京浜急行の駅で 面白い体験をしました。

車イスの人は私一人でしたが 皆で一両目のとまるホームへ 案内されました。ホームと電車の間には 段差がありました。

私は 「これをどうするのかな.....?」 と思いました。

すると 皆もわたくしも 驚きました。ホームが電動で上がって電車にくっついたのです。

皆は 私に いろいろ聞きましたが 「私もはじめて !!」と言って 一緒にじっと見ました。「いろいろ変わってくるな」とおもって うれしくなりました。

さて それから横浜駅に帰ってくると またまたびっくりです。

休日で混んでいたのか 乗り換えのためのエレベーターになかなか乗れません。

「身体の不自由な人や赤ちゃんや お年寄りをさきに乗せてください」と 何度も 駅員がマイクでさけんでいました。テープもまわっていて 何回も 何回も同じことを繰り返しているのですが 来るたびに満員で とても乗れませんでした。

結局そこで 30 分ちかくたってしまいました。階段を使える友達は さきにいつて首を長くしてまわっていてくれました。でも 解散場所の綱島駅でも お迎えの人達を待たせることになりました。

「私一人の車椅子のために ずいぶんめいわくをかけてしまったな.....」と思いました。

けっきょく 機械は いろいろよくなるけれど 人間は まだまだ。むずかしいな.....と思いました。

大原 友子

## 手作り品紹介

### ペン立て

(1個 350円)

支える会のいくつかある千代紙細工の一つです。牛乳パックを利用して側面に新聞紙をなんと2分もキリキリと短いロールに巻いた物を使っています。見掛けは優雅な千代紙細工ですが、手に持つとどっしりとした頼もしい重さを感じられます。ペン立てだけでなくメガネやリモコンなどを立てておくのにも重宝します。 おひとついかが.....?

## 今月のよつばホーム

### よつばホーム

先日読ませて頂いたある話しを紹介します。尾辻秀久厚生労働大臣が近年、特に感動したある障害者の方の言葉です。

「自分たちはタックス・イーターからタックス・ペイヤーになりたいんだ（税金を払う側になりたい）。」

とおっしゃっていたそうです。この言葉に心が動かされたということでした。

障害者の方々が、社会の仕組みが不十分であるために、働くことを諦めなければならないとすれば、それは大変残念なことだとも言っていました。私もよつばホームのみんなが少しでも居心地が良い環境になる様に色々と考えていきたいと思います。

障害者福祉の制度が大きく見直され、よりよい環境になることを望みます。 (職員J)

### 第2よつばホーム

早いもので今年もあとわずか…。だんだんと朝、夕は肌寒くなってきました。

寒くなると流行り始めるのが「インフルエンザ」ですね。グループホームでは、ホームドクターに来てもらい全員が予防接種を実施いたします。

ところで、「インフルエンザ」って皆さん正しく理解出来ていますか？

・**風邪との違い**—38度以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が強く、あわせて普通の風邪と同様の、のどの痛み、鼻汁などの症状。さらに、気管支炎、肺炎などを併発し、重症化することがあるのもインフルエンザの特徴。

・**種類**—A型、B型、C型に大きく分類され、現在、ヒトの世界で広く流行しているのは、A/ソ連型ウイルス、A/香港型ウイルス、B型ウイルスの3種類だそうです。

・**予防法**—基本は、流行前にワクチン接種を受けること。インフルエンザにかかった人の咳（せき）、くしゃみ、つばなどの飛沫と共に放出されたウイルスを、鼻腔や気管など気道に吸入することによって感染するため（飛沫感染）、インフルエンザが流行してきたら、人混みや繁華街への外出を控える事だそうです。

・**感染してしまったら**—単なるかぜだと軽く考えずに、早めに医療機関を受診。

「風邪薬」と言われるものは、発熱や鼻汁などの症状をやわらげることはできますが、インフルエンザウイルスや細菌に直接効くものではありません。

感染して、症状がでてから3～5日間にウイルスを排出すると言われており、成人では、通常2～3日で熱が下がりますので、熱が下がっても一兩日はうつす可能性が残ることになります。この期間には他のひとへうつす可能性が高いので、人の多く集まる場所は避け、学校や職場に行く場合はマスクをするなど、周囲の人へうつさないように配慮が必要。